



水泳学習のシーズンを迎えて

校長 永井 有司

盛夏の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

プールでの学習が始まっています。プールから子どもたちの歓声が聞こえてくると、気持ちが高揚してウキウキした気分になってくるのは、わたしだけでしょいか。

さて、学校では、初めてプールに入るときに、プール開きの式というものをします。高学年のプール開きの時に、児童に2つのお話をしました。

1つめは、「昨日の自分に負けるな」です。「自分なりの目標をもって頑張りましょう」と声をかけても、どうしても他人と比べてしまいます。子どもだけでなく大人もそうかも知れません。同学年ではあっても泳力は様々で、100mを簡単に泳いでしまう児童もいれば、浮くのが精一杯の児童もいます。そのような中で、前回ダルマ浮きができた児童が、今回伏し浮きに成功したなら立派な成長だと思います。イタリアのサッカーで有名なロベルト・バッジオ元選手が現役時代に「昨日の自分だけには負けたくないんだ…」と述べていたそうです。ベテランになって肉体的な衰えを感じつつも、できるだけ長い間現役を続けるために自分自身を奮い立たせる意味で使っていたのでしょう。逆に子どもは日々成長していますから、昨日の自分に勝つことは難しいことではないかも知れません。けれども、気持ちが停滞してしまうときと成長も健全なものとはならないでしょう。励まし方ひとつでも、成長の度合いが違ってしまうと思うと、子どもと接する我々大人の責任は重いと言わねばならないでしょう。



2つめは、「無理せず安全に」です。児童には、「頑張ることと、無理をすることは違います」「体調が悪い時、周囲の先生に伝えることも勇気のある行為ですよ」ということも伝えました。水の事故は後を絶ちません。水の中で自分の命を自分で守れるようにすることもプールの学習の大切な目標の一つです。その学習の最中に、水の事故が絶対に起きないように、教員全体で細心の注意を払って児童の安全を守るとともに、児童自身も気を付けて取り組めるようになってほしいと思っています。学校で運動する際に、教員は必ずブリーフィングを行います。簡単な打ち合わせのことですが、始まる前に児童の体調や配慮すべきことを教員同士で確認します。終わりには、確認した事項についての状況がどうだったか、改善すべき点はないかを話し合うのです。ご家庭でも、水泳学習シーズンは、安全のためにも、いつもにも増してお子さんの健康管理に気を配っていただければありがたいです。

* * * * *

さて、夏休みが近づいてきています。子どもたちは夏休みが来るのを首を長くして待っていることでしょう。それはきっと、日頃の生活では味わえない体験があるからだと思います。ただ、いろいろなご家庭があり、いろいろな環境がありますので、願っているような体験をさせてあげられない場合もあるでしょう。けれども、遠くに行ったり、有料の施設を利用したりしなくても、豊かな体験は可能だと思います。わたしの父は、よく川に連れて行ってくれました。泳いだり、魚を捕まえたり、バーベキューをしたり…。今でも心温かい思い出として残っています。ぜひ、子どもたちの心に思い出として残る体験をさせていただけたらと願っています。2学期、子どもたちから夏休みの思い出を聞くのを楽しみにしております。